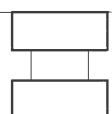
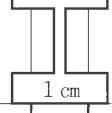
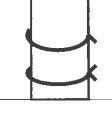


事 項	「啓翁桜」における切り枝の高品質促成技術																
ね ら い	<p>花の家庭消費の拡大やフラワーアレンジメントの普及等に伴い、桜の切り枝の需要が、近年急激な伸びをみせている。本県では、りんご地帯を中心に産地化への取り組みが見られるが、今後さらに遊休地等を活用した新たな産地が見込まれることから早急に促成技術の確立が求められていた。</p> <p>この度、桜の切り枝生産の主体となっている「啓翁桜」の高品質切り枝生産に係る促成技術が明らかになったので普及に移す。</p>																
指 導 奨 励 内 容	<p>1 新梢伸長抑制 高品質な切り枝生産のため、新梢の伸びを抑え、花芽の着生を増加させる方法として針金巻きが有効であり、作業性も優れている。 (1) 方 法 針金を、収穫予定枝（大枝）の基部に、隙間ができないように巻く (2) 時 期 5月中～下旬</p> <p>2 自発休眠の覚醒に必要な低温遭遇時間 自発休眠の覚醒に必要な低温遭遇時間は、8℃以下で750時間、5℃以下で580時間であり、年次差、地域差がある。（弘前市では、12月上旬頃） その時点の花芽は、促成しても問題のない段階（胚珠形成期）となっている。</p> <p>3 促成方法 (1) 枝切りしてきた大枝を約80～150cmの長さに分解後、出荷規格に基づいて選別し、切り口を揃えて所定の本数に束ねる。 (2) 無加温室内で、バケツ等の容器に束を入れて、2～7日程度水揚げをし、その後、促成を行う。 (3) 促成の温度は最低温度10℃、最高温度20～23℃、湿度は60%以上で管理する。 (4) 切り枝を乾燥させないように、1日2回くらい枝全体に散水（シリンジ）する。蕾が十字に割れて、花卉が見え始めてきたら1日1回とする。 (5) 切り枝の束を入れている容器の水は、3～5日に1回交換する。</p> <p>4 催色向上技術 促成開始時は暗室条件下に置き、蕾が膨らんだ状態（蕾が十字に割れて、花卉が見え始める前）になってから明室へ移動することにより、発色が良くなるなど品質が向上する。 暗室より明室を低温で管理することでより効果が高まる。</p> <p>5 出荷の目安 7～8割の蕾が十字に割れて、花卉が見えるころに出荷する。 切り枝促成の入室時期と出荷時期</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">入室時期</th> <th style="width: 33%;">促成温度</th> <th style="width: 33%;">出荷時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">12月中旬～下旬</td> <td>暗室 最低15℃ 最高23℃</td> <td>入室後20日前後</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">明室 最低10℃ 最高20℃</td> <td>入室後15日前後</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> <td>入室後10日前後</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			入室時期	促成温度	出荷時期	12月中旬～下旬	暗室 最低15℃ 最高23℃	入室後20日前後	明室 最低10℃ 最高20℃	入室後15日前後	1月		入室後10日前後	2月		
入室時期	促成温度	出荷時期															
12月中旬～下旬	暗室 最低15℃ 最高23℃	入室後20日前後															
	明室 最低10℃ 最高20℃	入室後15日前後															
1月			入室後10日前後														
2月																	
期待される効果	サクラ「啓翁桜」の高品質切り枝生産による枝物産地の拡大が図られる。																
普及上の注意事項	<p>1 針金巻は、きつく締めすぎると強風で倒伏する恐れがあるので注意する。</p> <p>2 促成期間中は、25℃以上にならないように換気する。</p>																
担 当	フラワーセンター21あおもり 栽培開発部、普及技術部	対 象 地 域	県下全域														
発 表 文 献 等	平成8、9、10年度 フラワーセンター21あおもり試験成績概要集																

【根拠となった主要な試験結果】

表1 花芽着生処理別新梢長及び花芽率、花芽肥大状況

(平成10年 フラワーセあおもり)

処理内容	処理月日	新梢長 (cm)			花芽率 (%)	花芽肥大 (横径mm)	備考	
		処理時 (A)	10/5 (B)	B-A				
剥皮幅 1 cm	5/15	10.9	35.1	24.2	69.0	2.65		1 cm
	6/2	22.2	54.1	31.9	68.9	2.92		
	15	21.9	48.2	26.3	56.3	2.90		
剥皮幅 5 cm 1 cm 残し	5/15	10.0	40.6	30.6	60.7	2.61		5 cm
	6/2	19.4	43.1	23.7	69.1	2.90		
	15	21.4	56.1	34.7	59.8	2.86		
針金巻き	5/15	10.8	25.7	14.9	75.5	2.85		針金直径 約 3 mm
	6/2	19.2	46.7	27.5	66.2	2.98		
	15	28.2	63.4	34.6	62.1	2.99		
無処理	(6/15)	26.2	80.2	54.0	—	—		

注) 処理日ごとに3樹、各樹に各処理区を1本ずつ、新梢長は3本調査、花芽率12/8採取

表2 花芽発育過程 (平成9年 フラワーセあおもり)

表5 アントシアニン濃度 (平成9年 フラワーセあおもり)

調査月日	弘前市弥生(標高150m)		弘前市三和(標高40m)	
	雌ずい 形成期	胚珠 形成期	雌ずい 形成期	胚珠 形成期
11/10	1	4	5	
11/20		5	1	4
12/1		5		5
12/22		5		5

明期への移行日	吸光度 (対比)
暗期13日 (蕾が膨らんでいる状態)	214.3%
暗期17日 (蕾の先がわれている状態)	48.6
暗期21日 (花弁が完全にみえる)	0.0
暗期0日	100

注) りん片剥皮法により検鏡

注) 520nmの吸光度

表3 必要低温遭遇時間

(平成9、10年 フラワーセあおもり)

年 月 日	8℃以下	5℃以下	備考
平成9/12/2	700時間	300時間	休眠打破処理の必要あり
10/12/8	750	580	休眠打破処理の必要なし
9/12/17	1,050	600	休眠打破処理の必要なし

注) 弘前市アメダスデータ

表4 入室時期と開花期

(平成8、9、10年 フラワーセあおもり)

入室時期 (月/日)	温度条件 (℃)	開花盛期 (月/日)	到花日数 (日)	開花率 (%)	花径 (mm)	花弁長 (mm)	花こう長 (mm)	花色 ^{注)}		
								L	a	b
12/15	10-20	1/12	23	46.8	22.1	11.8	4.2	80.33	12.40	1.82
12/19	10-23	1/26	38	54.0	24.3	12.2	8.8	84.11	11.15	1.32
12/20	20	1/7	18	91.3	16.6	10.4	0	74.44	21.42	-0.44
12/20	15	1/13	24	89.9	20.2	10.7	4.5	74.64	21.19	-1.45
12/20	10	1/31	40	44.6	23.9	13.2	5.8	72.60	22.14	-2.43
1/21	20	2/5	15	98.1	24.6	13.5	0	81.71	11.89	0.33
1/21	15	2/10	22	96.4	25.1	11.7	4.9	75.89	18.70	-0.97
1/21	10	2/27	37	69.0	25.4	12.1	8.5	66.74	24.65	-2.29
2/21	20	3/6	14	95.6	21.7	10.8	2.2	75.28	18.94	-0.30
2/21	15	3/10	17	94.1	24.0	11.3	7.4	73.02	19.59	0.57
2/21	10	3/23	30	81.8	24.5	11.4	8.2	69.75	20.91	0.18

注) 花色: 色彩色差計測定

L: +は白方向、-は黒方向、a: +は赤方向、-は緑方向、b: +は黄方向、-は青方向
試験場所: 平成8年はフラワーセンター21あおもり、平成9、10年は弘前市農協花木促成室
散水(シリンジ): 1日に1~2回、蕾が十字に割れたら1日1回、色づいたら中止